

まふがっこ



こどももっと



多民族フェスティバル



ひとこま



多文化子ども食堂

小野原図書館



箕面市立 多文化交流センターニュース

Minoh Multicultural Center News

発行：箕面市立多文化交流センター 指定管理者：(公財)箕面市国際交流協会

No. 20
発行 2024. 3月



発行：2024年3月
編集・発行：箕面市立多文化交流センター (Minoh Multicultural Center)
指定管理者：公益財団法人箕面市国際交流協会
MAFGA (Minoh Association For Global Awareness)
〒562-0032 大阪府箕面市小野原西 5-2-36
TEL・FAX：072-734-6258
<https://minoh-tabunka.jp>
開館時間：9:00～22:00
休館日：毎週月曜(ただし、祝日月曜は開館)と 年末年始



阪急バス	オレンジゆずるバス
① 小野原	① 多文化交流センター前
② 小野原南	② 小野原西五丁目
③ 小野原西五丁目	
④ 関西学院千里国際キャンパス	

※バス路線、時刻などについては、阪急バスホームページをご覧ください。

すべての人たちが自分らしく暮らせる地域を

1992年6月に財団法人として設立され、2013年4月に公益財団法人に移行した箕面市国際交流協会は、多くの市民、ボランティア、行政との協働のもと、地域に根差した多文化共生社会の実現に向け取り組みを行っています。



外国人市民の人権保障

言葉の壁、制度の壁、こころの壁により、必要な人や資源へのつながりを持ちづらい外国人市民に対して、市民ボランティアや行政、地域団体などとともにその壁を低くし、一人ひとりの基本的人権が保障されるための事業を進めます。また、当事者の自立的なネットワークづくりを応援します。



多文化共生社会の実現

国籍や言葉、文化が異なる人々が同じ地域社会の構成員として暮らし互いを尊重しあえる地域社会づくりを、多様な人々の協働のもとに進めます。外国人市民の地域参加を促進し、交流を通して共生へ向かう地域づくりに取り組みます。



市民参加による地域づくりの推進

地域の国際化には、市民の参画と協働が不可欠です。官と民の間に位置する協会は、行政と民間との協働を実現するコーディネイトに努めます。また、ボランティアや外国人市民など、関係者との対話を重視し、市民を主体とした取り組みを推進します。

2022年度 事業報告



案内人 01
ウルジーバドラフ・オトゴンスレンさん
(モンゴル出身)
留学生として箕面市に来て、ホームビジットプログラムに参加したのがMAFGAに出会ったきっかけ。2022年度は、外国人防災アドバイザーも務めました。



外国人にルーツをもつ子どもたちの学習支援・居場所 さぼると・こどももっと

毎週土曜 10:00～16:00
若者を中心に支援者も増え、毎週土曜は子どもたちの活発な声がセンターに響きわたっています。ある昆虫好きの子どもが開いたクワガタについてのミニセミナーは、ほかの子どもや支援者の前で自分の興味のあることを説明する良い機会となり、子どもの自信にもつながったようです。
開催回数：90回（さぼると45回、こどももっと45回）
のべ参加者数：子ども389名、アシスタント・ボランティア：319名

豊川南小地区福祉会

2022年7月からcomm cafeにて子ども食堂を毎月1回開催しているほか、地域の人が誰でも気軽に立ち寄れるカフェスタイルのつながりの場「あいあいカフェ」を毎週水曜11:00～16:00に地下1階のあいあいルームで開いています。



子ども国際理解事業

多文化体験・交流・学びクラブ「まふがっこ」では、講師4名を迎え、年2回、世界の遊びや文化に触れることのできるイベントを開き、のべ27名の参加がありました。また、センターの外では、今年も「小学校多文化理解プログラム」を実施。のべ89名の講師が各箕面市立小学校で、自身の母文化の紹介などを行いました。
開催回数：10回 のべ参加者数：207名



まふがっこ小プロで講師をしています！
たくさん子どもたちにモンゴルのことを知ってほしいです



多民族フェスティバル



ふだん「ひとこま」でやっているキャロムで盛り上がりました！
屋外でやるキャロムも楽しいです

防災アドバイザーとして、防災ブースを展開。防災クイズには多くの子どもたちが参加しました

外国人市民のための生活相談

相談日などについては、お問い合わせください
子育てや教育、仕事、医療、福祉、在留資格など、外国人市民の生活での悩みや困りごとにさまざまな言語で対応しています。2022年10月からは、多文化交流センターに加え、大阪大学箕面キャンパス3階（「ひとこま」を展開しているスペース）にて、毎週水曜、出張相談窓口も開設。日本語、英語、ポルトガル語などで相談に対応しました。
対応件数：1,174件（前年度より33%増）
相談種別：医療174件、雇用・労働122件、日本語学習91件、教育84件、入管手続62など。



学生・若者が地域とつながる居場所 ひとこま

毎週水・木曜10:00～15:00
2021年2月～大阪大学箕面キャンパス3階に、地域や社会・市民とつながり、多文化共生を発信・共創となる拠点としてオープンした「ひとこま」。世界各地で親しまれているボードゲーム「キャロム」を置いたところ、学生や若者のみならず、地域の人巻き込んで大盛り上がり！2023年3月29日には、「ひとこま」のスペースをつかって、キャロム大会も開きました。
開催回数：83回 のべ参加者数：724名

「ひとこま」のサブコーディネーターをしています



小野原図書館

開館日時：火～日曜10:00～17:00（祝日の月曜も開館します）
地域のみなさんと外国人市民との交流の場となる多文化交流センター内にある図書館として、多言語の新聞、雑誌、小説、絵本などが充実しています。2023年2月にはコムカフェで開催した「ワタシたちハニングダ！」上映会に合わせた本の展示を行うなど、センター開催のイベントとも連動した企画も随時おこなっています。
来館者数：91,289名



comm cafe コムカフェ

カフェ営業時間 9:30～17:00（ランチ営業11:30～13:30）
営業日、メニューについてはカフェFacebookをご覧ください
世界の家庭料理を提供したり、日曜(不定期)に「せかいのあさごはん」を提供したりしています。2021年度から引き続き、みのおキューズモール内にある「キューズリビング」で定員5名程度の小規模なイベントを開いています。2022年度は9日間開催し、のべ72名の参加がありました。
シェフ：22名（16ヶ国・地域）ボランティア：50名（9ヶ国）
日平均ランチ販売食数：30食

私もカフェでシェフとして、もてなし料理の「ボウズ」をよくつくっていました



案内人 02
こばやし ともよ
小林 知世 さん
(長野県出身)
インターンに応募したのがMAFGAと出会ったきっかけ。MAFGAの「多文化読書会」がきっかけで京都のウトロ地区にも行きました。